

水竜の口―植田豊水、絃東憲水、城山―山
 泉吟水、絃三浦蓮水(神戸)、新撰組―古田
 東水、絃東憲水、噫運命の山下兵団―尾山好
 水、地震加藤―藤原英水、本能寺―反町紫水
 (神戸)、耳なし芳一―馬瀬槍水、石重丸―
 東憲水 (敬称略)

告

京都琵琶協会八月定例茶話会 八月三日(土)
 午後一時京都本出水西入上ル徳雲寺(電話
 四六九五二番)で開催。同好者の御来遊歓迎
 (当番幹事 伊吹正陽 杉邑錦鳳両氏)
 京都護国神社みたま祭奉納会 八月十三日
 十六日奉納邦楽舞会に琵琶部は京都琵琶協会
 から四日間交替演奏する。
 三美会琵琶演奏会 十月六日(日)京都東寺境
 内の新築浴南会館で京阪神各流派琵琶演奏会
 開催(三美会は田中鶴水、矢吹華水両氏主宰
 の会)。次号詳報
 京都琵琶協会各流派合同秋の演奏会 十月
 二十七日(日)京都島原の歌舞練場で明治百年と
 協会創立二十周年記念演奏会開催(次号詳報)

(住居表示変更)

鶴田錦史氏 東京都江東区亀戸三丁目九番
 十九号に
 長谷川淡水氏 北海道小樽市入舟町二丁目
 十四番十九号に

よもやま (敬称略)

○山崎旭幸師一行歓迎琵琶を聴く会 六月
 十三日鳥取ナショナル会館(主催鳥、琵琶)

同好会 敦盛―三田田田 隆盛の最期―岡
 垣旭洋 田村邸―田中旭法 花の白虎隊―
 田子旭園 彰義隊―伊吹正陽 禪師と正宗―
 矢吹旭美津 羅生門―押川旭葉 天野屋利
 兵衛―吉野洲水 戦艦大和―山崎旭幸
 ○天津旭八千代リサイタル 六月二十三日
 大阪梅田産経会館(主催同女史) 七福神―
 天津旭八千代 石重丸―八千代晴美、同ひ
 とみ、同由美、笛菊水湖風 橋新琵琶楽団
 春の調べ、汐汲乙女、荒城の月夜奏曲、伏
 見の吹雪―原島旭粧、河野旭保、伊藤旭暢
 久世旭雪、尾山旭瑞常、末広旭馨、中村旭
 園、横野旭鳳、青山旭光、宮田旭昇、塩谷
 旭洲、洋舞有馬竜子バレ―団二十人、琴尺
 八唱歌付、指揮橋旭翁 秋風故郷山―旭洲
 秋元旭農、正絃旭八千代、小絃旭輝、剣舞
 尺八付 お蝶夫人―高瀬旭芳、中島旭穂、
 絃宮垣旭璋、旭鳳、西川旭操 粟津の露―
 梅原旭濤、旭鳳、絃松井旭翠、旭操、小絃
 旭瑞常、立方志賀山千歳 吉野山懐古―大
 石旭運、旭輝、絃松岡旭文、岩橋旭秀、田
 中旭昇 華道華の恵み―小絃旭輝、旭園、絃
 旭操、奥村旭美、小絃旭輝 羅生門―旭園、
 旭操、絃松岡旭岡、旭暢、旭昇、小絃旭園、
 旭秀、絃旭粧、旭濤、旭馨、小絃旭桂、絃
 新之丞社中 天の羽衣―旭暢、旭粧、旭馨、
 絃旭園、旭芳、旭穂、小絃旭桂、尺八琴鼓
 付、立方水木辰之助、水木歌之江、王昭君―
 旭光、旭桂、絃旭保、旭瑞常、琴唱歌付、
 立方花柳有光 仏御前―旭八千代、絃旭修、
 茶洲、旭文、絃新之丞社中、立方花柳小菊、
 旭洲、旭文、絃新之丞社中、立方花柳小菊、
 小絃旭輝、点前高重宗翠社中、噫無情―旭
 八千代、詞旭章、旭鴻、旭秀、絃旭翁、大
 旭麗、ヴァイオリン、唱歌 吟弁財天―大

石麻養央 吟詠燦然たり明治百年史―安倍
 秀風、笛湖風、盲僧琵琶の幻想―四絃旭翁
 旭岡、五絃旭輝、旭粧、旭光、旭鳳、四天
 王寺僧侶二 舞扇鶴ヶ岡―旭八千代、絃旭
 鴻、旭洲、旭農、小絃旭馨、尺八横笛鼓、
 立方中村扇雀

あ 今年明治百年であると同時に京
 都府百年にあたり去る五月には府庁
 がと その他盛大な祝典が挙げられた
 き 思えば京都人はその昔京都遷都とい
 う一大衝撃にもめげず時代の新風を真っ先に
 受けて今日までひたすらに歩み続けた。そう
 して我等の京都を日本人の永遠の心のふるさ
 ととして現在あらしめた先哲の偉業に改めて
 頭の下がる思いを禁じ得ない。琵琶は日本最
 古の音楽として皇室から殿上人にもはやさ
 れ永い歴史に伴う幾多の変遷を経て今我等庶
 民の心に喰い入り染しませてもらっている。明
 治維新以前の京都御所やその周辺の公卿屋敷
 ではみやびな琵琶の音が朝な夕なに鳴って長
 閑な日々を送られたことだろう。多端であつ
 た明治百年を記念して維新以来の出来ごと
 ちなんだ曲目を以てこの秋は各地で琵琶演奏
 会が盛んに催されようことを期待する。京都
 でも中秋十月二十七日に別項予告の通り太夫
 さんの古式による道中で名の知られている京
 都の名所島原の歌舞練場を借切って華々しく開
 催が決定している。

昭和四十三年八月一日発行(非売品)
 編集者 植村 稔
 発行所 京植村稔
 京都市左京区下鴨上川原町
 四八 電話 四〇八〇九番
 郵便番号 606

京 絃 第一七〇号 京 絃 社

「平家物語」の物語 (十七)



木曾殿は只一騎粟津の松原へ駆け給ふ。
 ころは正月二十一日、入り逢(いりあひ)
 ばかりの事なるに薄氷は張りたりけり。
 深田ありとも知らずして馬をさつと打入
 れたれば馬の首も見えざりけり。木曾
 殿、今井が行末覚東なきに振り仰ぎ給へ
 る内兜を三浦石田次郎高久おっかかり、
 一よっ引いてひやうと放つ。

当時の武士気質主従の深いつながりに触れる。
 これを知って集った木曾勢三百余騎は、義
 仲を先頭に鎌倉勢六千騎の真只中に突撃す
 る、縦横無尽に駆け破り、更に二陣、三陣、
 四陣と打破った。最後は義仲、兼平たゞ二騎
 だけ。流石の義仲も「鎧がなんとなく重くな
 った」と云う。兼平は涙ながらに「武士たる
 者は日頃いかなる功名をたて、も最後に不覚
 をとれば名を汚します。君はあの松原で静か
 に自害遊ばせ」と云い残して只一騎敵陣へ斬
 って入る。義仲は粟津の松原へ駆け込んだが、
 馬が深田にめりこみ動けなくなった。兼平は
 如何にと振返った途端、兜の内側を矢で射ぬ
 かれて長期をとげた。時に寿永三年正月二十
 一日、義仲三十一才であった。

宇治川の戦いに破れ、後白河法皇を連れ出
 す工作にも失敗した義仲は万事窮した。今は
 故郷の信濃へ落ち延びるのみ。逃がれ逃がれ
 て大津打出ヶ浜の琵琶湖畔に現れた。瀬田川
 の橋を守っていた乳兄弟の今井四郎兼平は無
 事だろうかと気にかゝったが、兼平の方も手
 勢五十騎ばかりになって都へ引返す途中、浜
 辺でばったり義仲に出逢った。
 「そなたと一語に死にたいとこれまで逃れ
 て来た」と義仲が云へば、兼平も「お行方を
 案じていました」と涙にくれる。これまで義
 仲の乱暴ぶりを非難してきた平家物語も、敗
 軍の将としての義仲の姿に深い同情を寄せ、

たゞ一人生き残った女性がある。義仲の愛
 人巴(ともえ)御前。兼光、兼平の妹で色白
 の美人だが、弓矢太刀をとり馬に乗って鬼神
 をもひしぐというスーパーウーマン。義仲に
 従って敵陣地に駆け入った時にも最後まで残
 り、敵の太刀自慢の大将の首をねじ切って落
 ちのびた。なよなよとした貴婦人ばかりが出

て来る平家物語では特異な女性像だ。吉川英
 治の新平家では義仲の妻、女兵の大将として
 大いに活躍する。巴と共に名の出て来る設冬
 (やまぶき)は素性不明であるが、新平家では
 女兵の一人で義仲の愛人となり、義仲を取
 巻く愛憎物語を繰りひろげる。

大津市晴嵐町に残る粟津の松原は、かつて
 近江八景の一つに数えられた景勝の地である
 が、今は補装道路わきにひよろひよろの松が
 数本あるだけ。古老の話では、以前は太い松
 並木が生い茂り「粟津の晴嵐」を充分に偲ば
 せたが、今は自動車の排気ガスですっかり枯
 れたとか。附近には各種大工場が立並び、古
 戦場の面影は全くない。

この松原から約百メートル西南、人家に囲
 まれた一角に今井四郎兼平の墓がある。兼平
 の出生地長野県諏訪郡で今井姓を名乗る人が
 江戸時代に建てたらしい碑文が微かに読める。
 傍ら明治四十四年に杉浦重剛が建てた「忠勇
 義烈、武士の鑑」の顕彰碑。今もこの主従の
 情愛にうたれる人もあるらしく一枚の草花が
 雨に濡れていた。
 義仲の墓は大津市馬場一丁目の義仲寺に苔
 むしている。

暑中御見舞
 京 絃 社
 主幹 植村 稔 水

随筆

近頃思うこと(その二)

長 浜 南 城



- 琵琶界の現状を静観すれば、各地に於て日を追って、各流合併の研究演奏会が盛大に催される様相は、全く慶祝にたえない所である。長短相補う事は向上発展を意味する。
- (一) 然し練習量が多く、芸達者が多くなつたからと云つて、決してそれだけで良いとも云われない。
- (二) 練習充分であるからとて、無意識に弾法を長たらしく演奏することは、曲全体の感激性を低下せしめ、琵琶の淡正さを欠き、労多くして功少く耳ざわりのするひつこさを与える。
- (三) 弾法も歌も、要するに短かいながら氣の利いたものこそ、曲全体に変化を加味してくれるようである。必要なだけの弾法を考えてみたい。
- (四) 新しい弾法だと称して、琵琶本来の原則を外れた余韻や音締めを挿入する事は、寧ろ駄足であつて風格を失つて了うし、又、歌も同様、琵琶本来の原則を外れた歌風を挿入しがちな傾向は、琵琶人として心すべき事である。
- (五) 他の楽器でやるべき事まで琵琶に取入れ
- 大石を中心とする赤穂事件も漸く仇討計画決定まで進み、愈々核心に入る順序だが、此の辺で一休みして今回は義士銘々伝の内から倉橋伝助の生立を銷夏読物に御紹介する。
- 江戸麹町三番町に住む三千石の旗本で大和流弓術の達人長谷川丹後守の二男金次郎は、文武両道を能く修めた代りに酒も女も嫌いと云う変人であつたが、或機会から吉原の女郎に馴染み、爾来内を外の有様で人々の意見も聞かばこそ、遂に親から勘当された。約束に

狂醉亭漫録(三十九)

古 谷 寛 水

暑中御見舞

池 上 作 三

東京都板橋区板橋一丁目
 二十一番四号
 郵便番号 173
 電話(961) 一一〇〇番

より花魁の許へ行き当分養つて呉れと頼むとズドンと肘鉄砲「世辞は動めの身は親方に、永の年期が一枚の紙に変わった此の体、何卒夢と諦めてくんまし」と来た。悄然去つたが今更世間に向ける顔もなく身投げでもして死んでやれと吾妻橋の欄干に凭れ川の面を見下すと、折から来かかる屋根船の内から聞ゆる爪弾きは「さりとて狭い御覧見、死んで花実が咲こかいな。」翻然悟つた折も折遇然出合つた下郎の八助から教えられ、現在上総木更津に住む乳母のお豊を訪ねる事に決心する。

便船に乗り木更津に渡り乳母のお豊と尋ねたが上総木更津狭い様で広く、結局消息は判らぬので終に錨床の親方伝吉に助けられる。粹人の伝吉は金次郎の身分を察し、家に止めて氣永く探すと、お豊は漁師町の藤兵衛の女房であつたが三年前に死んだと判る。渡る世間に鬼は無し、落ちぶれて袖に涙のかかる時人の心の奥ぞ知らるる、伝吉は親切にも金次郎を家に置き床屋の職を教え一人前の職人に仕込む。流れて末は限りなき海となるべき山水も暫し木の葉の下潜る。金次郎は評判の良い職人となり稼業に励み、主人夫婦も積善の家之餘慶有り喜び、何時か四年の歳月を過ぎた或日、伝吉の友人で江戸表築地鉄砲洲浅野家の足輕口入元締萬屋久右衛門が「兄弟無事か」と訪ねて来て、金次郎の人柄を見抜き浅野家足輕に推挙すると云うので、金次郎も決心し主人夫妻の恩儀を謝し、住み馴れた木更津を後に江戸へ戻る。出発前江戸での勤め

にまさか長谷川金次郎を名乗れないので、伝吉に助けられた謝恩の意に母方の姓を冠せ、茲に倉橋伝助と名乗る事になった。

倉橋は浅野家へ仕えたが其の後間もなく、元禄六七年頃(伝助切腹時三十三歳から逆算する)五代將軍綱吉の子綱千代誕生祝として各大名に三日間登場勝手たるべしとの布令があり、浅野家に於ては其三日目に武芸奨励の為大和流弓術大会を催し、出場者は身分を問わずとの事であつたので倉橋も御前で騎射の一手を御覧に入れ度いと申し込む。

当日番敷も進み愈々倉橋の出となると主君采女正は予て堀部彌兵衛からの話もあり、どんな男かと見てあれば、小兵乍ら苦味走つた好男子の伝助が紋服袴に纏を纏に、鷹の羽の紋打った幔幕をはね除け、御本家芸州侯より当家へ賜つた名馬灘嵐に打誇つて現われた。重藤の弓二た手持ち馬見場の主君に目礼を送り先づ悠々と序の間を踏む、変つて破の間、急の間となる。鞍上人なく鞍下馬なき如く自由自在、聽て弓を満月と引き絞りビューッと天的的を射る、続いて二の矢三の矢で一寸の天地人の三つを物の見事に貫く。采女正は此の名人芸に驚き、堀部彌兵衛を通じ異存無くば馬廻役を命じ碌五十石を与えると言ふ。無論倉橋も喜んでお請に及び茲で主従固めの宴が催され、席上主命にて羅城門の一曲を舞う。殿の御感斜ならず御盃頂戴の折、思はず床の間の千羽鶴の一軸を見て涙ぐむ。殿様は不審に思い其理由を尋ねると伝助は、鶴は親

暑中御見舞

宮 崎 直 二

東京都世田谷区太子堂町二
 丁目二番八号
 郵便番号 154
 電話(414) 六五七八番

陸奥平泉
藤原三代の夢の跡
辻 旭 城



盛岡に行く途中、平泉に降りたのは深い霧の朝だった。今もなお駅前ふるびた旅館がたった一軒目につく。私をはじめ平泉に来たのは昭和十八年ごろで二十数年前のことだ。ふたたびやってきた私の目に、このさびれた町は何と重く沈んで見えることか。

中尊寺本坊にはいるまで駅から大泉ヶ池、毛越寺、塔山、高館、義経堂、月見坂などみどころがあり、本坊の奥には金色堂、鐘楼、経蔵などがある。

長い戦争があった。しかし四十代であった私はまだ青春の血がもえていた。夜の宿屋の二階で議論をしたびっこの番頭に、この町で再会した。彼のひたいには深いしわがぎざぎざこまれていた。つもる話の数々をしながら彼と並んで中尊寺の道を歩いてゆく。町はなにもかも古い、四ツ角に一台の馬車が客待ちをしている。古い石だたみの参道に、木々が静かにざわめいていた。

人間もまたいつか塵都のなかの幻のように消え去ってゆく運命にあるのだろうか……

「国破れて山河あり、城春にして草青みたりと、笠うち敷きて、時のうつるまで涙おとしはべりぬ。夏草やつわものどもが夢の跡」

「奥の細道」で芭蕉を悲嘆せしめた奥州藤原

暑 中 御 見 舞

日本琵琶振興会

鈴木 密 水

埼玉県越谷市東方二三九二
郵便番号 343
電話(〇四八九)四二五〇番

薩摩琵琶四明会

- 名譽会員 杉野 岳彦 小野 岳彦 山田 来村 市村 千治 杉本 内治 山之内 兼天 原口 兼天 篠崎 兼天 小奥 林捷 有馬 南天 藤崎 天城 長谷川 博章 香川 錦風 高川 錦蝶 平部 春嶺 伊井 正陽 栗吹 天芳
- 事務所 京都市中京区河原町通三条上ル東入 栗本天芳方 郵便番号 604 電話(京都231)七七二六番

三代百年の衰亡の跡である。

旧陸羽街道ぞいに低い軒の商家や農家の町並がつづき、芭蕉が立って懐古したその高館跡の丘陵から、荒涼とした北上川の平原が見おろせる。衣川との合流点に近く鉄橋の上を汽車が小さく走っていた。このあたりが衣川古戦場で、弁慶戦死の地と伝えられるところ。草いっばいの荒れた石段をのぼると、萱葺の小さいお堂があった。義経堂である。

華やかなりし藤原歴史をひもとけば、奥羽地方の安倍頼時一族の拠点であった厨川柵が源頼義の軍勢に落された。頼時戦死したのが康平五年九月十七日、青史に残されている前九年の役が即ちこれで、後三年の役には出羽の国の住人清原武則の四男清衡が源氏に味方して戦功をたて、奥州鎮守府將軍となる。藤原氏の初代は清衡である。ここに藤原文化の新しい歴史がはじまったのである。

彼は若かりしころ北上川流域でとれる金と漆とを馬に積み京都に運び、代りに京の仏教文化を移入した。小説や映画に出てくる砂金や絹を馬につんで京都へ行ったのが金売り吉次である。

吉次は幼少の牛若丸を京の鞍馬山から連れて帰った。平家討伐後、兄頼朝に追われた義経は平泉に難をのがれた。

四代目泰衡は、義経のいる高館を包囲し義経は文治五年四月二十九日華々しく応戦したあと、戦死するという悲劇物語りである。それから八百余年、北方文化の町も荒れ果

暑 中 御 見 舞

仲川 秀 邦
旭 朋

東京都中野区中央一丁目 三二ノ六
郵便番号 164
電話(361) 七七四〇番

一水会 富山支部
北陸琵琶同好会本部

田中 歴 水
田中 愛 水

富山市太田口通一ノ六
郵便番号 930
電話(31) 七六八八番

高橋 蘇 水

函館市大手町一六ノ一〇
郵便番号 040
電話(22) 〇七五〇番

函館琵琶協会
函館竜吟会吟詠連盟

西村 峽 水

函館市柳町三ノ一五
郵便番号 040
電話(51) 七九七九番

我が渡して通れよと 声高々につめよれば
清国動する色もなく 今こそさすらいの身に
こそあれ 都に栄えし武士なるぞ 汝等如き
下郎輩 なんでも渡してなるものぞと 言ひ
もあえず六平太 言わしておけば限りなし
刃にかけてもおつとらんと 聞くより早く山
賊等 ドットばかりに押し寄する 暫しもみ
合ふそのうちに さしもの山賊無惨にも 次
第次第に斬りたてられ 右往左往に散ってゆ
く 清国と六平太は 暫しが程は組み合ひし
が 清国の力まさりけん 遂に六平太を組み
伏せたり 清国首を挙げんとしたりしに 六
平太ホッと苦しき息をつき この三国の国境
に いとも安き土地のあり 若しわが命たす
けなば いでこれより案内せむ かくて六平
太の先だちにて 山また山を越えゆきて 奥
へ奥へと分けて入り 山道伝いに行くほどに
白雲おほい屋なおくらく 涼々たる響山岳に
こだまして 清き流れの岸にそう 椎原台地
に着きにけり 清国・維盛の一族が 憂き世
をしのびこの郷を 五ヶ所に分ち住み慣れし
は 椎原 久連子 仁田尾 葉木 縦木の部
落にて これぞ明治の初めつかた ありし次
第は細々と 八代侯へと達せられ 世に知ら
れざる秘境の地 五家ノ荘とこそなりにけれ。

五家の荘と湯西川

平家の落人が落ちついたという場所は諸方
にあるらしいが、筆者(至絃)は五家の荘と
湯西川について書いてみる。五家の荘は平家

暑 中 御 見 舞

錦びわ宗家

水 藤 錦 穰

東京都練馬区旭町五四ノ一
郵便番号 176
電話 (930) 四四九八番

筑前琵琶

藤 卷 旭 鴻

東京都豊島区高松三ノ一二
郵便番号 171
電話 (955) 三六四五番

薩摩琵琶正絃会々員
赤心詩吟家元
赤心会々長

森 鶴 堂

静岡市西草深町九六
静岡農山村問題研究所長
月刊「静岡の考え」主幹
電話〇五四三〇四一四七二番
郵便番号 420

日本琵琶

堀 口 至 絃

埼玉県比企郡滑川村
福田 三七七〇番地
郵便番号 355

てて、その荒廢のロマンチズムは、私たち
をほげしい追憶にまで引きずり込んでいく。
そしてその追憶は苦かった。田や森の道のと
ころどころに、名もない石仏や荒涼とした小
さい堂がある。
毛越寺の山門をくぐるとホステルがある。
人影のない庭に、南大門跡の柱がひっそり
と立ち、藤原三代の夢は巨大な礎石を残すば
かりだった。古い木の影をうつす池の岸に、
黒い水草がむなしく残っていた。

五家ノ荘



堀口至絃作

騙る平家も二十年の 夢は破れて一の谷
戦雲溪間に渦まけば 積善の余慶家に尽き
城中俄に騒ぎ立つ 人生朝露の身を以て 互
に鎧を削りしは 恨の末と言いながら いと
浅ましき極なり」落ち行く平家の公達は 都
鄙遠慮の旅の路 夢見も悪しく船に乗り 壇
の浦へと漕ぎ向う」逃げ後れたる将士のうち
清国・維盛の一隊は熊野のほとりにありける
が 源氏の船の後より 本船隊に合せんと
追いかけて追いかけて急ぎ行く 時しも強風船を
揺り 浪に漂い行くほどに 豊後の浦にぞ着
きにける」暫しやすらい行くほどに 山賊の
一団現われて 平家の落武者とおぼえたり
身に帯びたるは言うに及ばず 金銀財宝悉く

暑 中 御 見 舞

錦心流琵琶一水会

神 戸 支 部

神戸市生田区山本通四丁目
七ノ五 蔵本司水方
郵便番号 650
電話 (22) 一七四九番

錦水会派薩摩琵琶

柿 本 錦 城

東京都台東区駒形二ノ四ノ八
郵便番号 111
電話 (841) 三五一〇番

正派鶴声風薩摩琵琶
日本吟詠鶴声流正吟会

伴 野 鶴 風

静岡市沓谷三丁目一九三ノ二
郵便番号 420
電話 (54) 九四四四番

薩摩琵琶錦水会
大阪四明会員
東京正絃会員
大阪さつき会員

錦樂岡部曾代

大阪市西区京町堀五ノ一一
伊勢谷方
郵便番号 550
電話(四四一)一九六六番
東京都新宿区十二社四一九番
電話(三七七)八二二四番

が壇の浦に落ちゆく際に、平清国等五人の勇将とその家臣等は、強風のため途中航路を誤り豊後の地に上陸して山賊に出会い、その案内で山深く分け入り、五家の荘の地まで行ってそこに落ちついたという。人目を避けるため五人の勇将とその家来は五ヶ所に分散して住み、同志の間では互に行き来したが、それ以外の人は交際せず今日に至ったものだという。その五ヶ所の部落は椎原、久連子、仁田尾、葉木、横木である。椎原は戸数十七、小学校もある。住民の姓は平ではなく緒方が多く僅かに菅原がある。筆者と同行の英国人は平家の用いた武器などが見たいと言ったが、それは倉庫に入っているもので平日は見せない、平日見ると眼がつぶれると戒められていると言うので、ではベデグリ(家系図)が見たいと言うと、それも見せないことになっているが絶対に見たと言わないと言ったので漸く見せてくれた。椎原の平清国が落ちついたと言う家は、庭に大きな銀杏の木があり、この根を利用して大釜をかけ入浴に用いている。住宅は草葺の屋根で奥の部屋は畳が敷いて床があり、次の部屋は板の間に炉が切つてある。清国は世を去って緒方大典君が相続している。緒方というのは平姓を名乗らず母方の姓を用いている。

小学校へ行ってみた、一年生から六年生まで一室に集めて授業するのであるが、此日は先生が風邪を引いて休んでいたため授業は無い。先生は一人であるから先生に何か故障

があれば休みとなる。このような小学校を卒業したのは県立の堂々たる中学校へ入学するには入学試験が受からない。このため大典君の母は息子を立派な小学校に入れ、大典の卒業するまで一緒に住んでいて、熊本県立宇土中学校に大典を入学せしめた。このため筆者と英国人は大典に英語を教えたので、大典の家を訪ねることとなったのである。

(未完)

切抜帳から (三一)

平井春嶺

終戦の真相 (九)

六、天皇陛下六巨頭を召されて
心中を御洩し遊ばさる

かくして六月二十二日をむかえました。六月二十二日という日は実に大切な忘れることの出来ない日であります。この日図らずも総理、陸軍、海軍、外務の四大臣と陸軍参謀総長と海軍軍令部長の六人に対し、天皇陛下からお召しがありました。

天皇陛下は一同に椅子を賜い今日は懇談をしたいと仰せられて、いろいろ戦争のことについて御下問があり、それぞれ皆のものよりお答えを致したのでありますが、最後に、天皇陛下から「これは命令ではないが、今後本

暑 中 御 見 舞

<p>筑前琵琶日本旭会師範 田 中 旭 照 近代詩吟照風流宗家 田 中 照 風</p>	<p>岐阜市若宮町二の三二 郵便番号 5000 電話(〇五八二)三九四番 (63)62)〇五九番</p>	<p>秋 葉 芳 水 東京都品川区小山四丁目 九ノ丸 浅草寿司総本店 郵便番号 1441 電話(781)〇〇四五番</p>
---	--	---

<p>札幌錦心流琵琶友会 札幌錦心流琵琶紅水会 山 崎 紅 水 札幌市南七条西十丁目東向 郵便番号 060 電話(52)二八〇五番</p>	<p>松 谷 了 玄 富山県氷見市幸町 郵便番号 9355 電話(72)二二〇八番</p>	<p>竹 下 翠 風 東京都杉並区下高井戸 三ノ三六 郵便番号 1666 電話(303)五八九四番</p>
---	---	---

暑 中 御 見 舞

<p>足 立 芦 光 東京都太田区南千束町 一丁目二〇ノ一六 郵便番号 1445 市 来 芦 村 芦屋市三条町二四八 郵便番号 6599 電話(2)四三三八番</p>	<p>高 妻 芦 豊 西宮市大谷町七ノ一 郵便番号 6601 国鉄アパルト 6602 家元 針 谷 錦 古 高崎市岩鼻町局前二四七 郵便番号 37012 電話高崎(46)二〇〇六番</p>
---	--

<p>東洋音楽学会々員 薩摩琵琶鶴鳴会 普 門 義 則 横須賀市富士見町三ノ一七 郵便番号 238 電話横須賀(0468)三二七七五</p>	<p>錦心流琵琶 山 田 幻 水 横須賀市船越町二丁目五〇一 郵便番号 237 電話(0468)三六七六番</p>
--	---

土決戦の用意をすることは是非充分にやって貰いたい、同時に考えて貰いたいことは戦争を出来るだけ早く終るよう工夫して貰いたいことである」という意味のお言葉があったのであります。

この言葉には一同感激致しました。鈴木さんは私(迫水久常氏)に「今日は陛下から我々が申し度もいうを憚られるようなことを卒直に仰せられた、誠に有難いことである。」と語られたのであります。

併しこのお言葉が若し軍、殊に陸軍の下のものに洩れると、それこそ大変なことになる。陸軍の若い人達の考えは自分達の考えが正しい考えて、天皇陛下がそれと違ったお考えを持たれることは、天皇陛下が側近の悪い者から誤らされておられるのだから、側近の悪者を除き天皇陛下をおいさめして、正しい考えにかえて頂かなければならぬという考え方でありませぬ。それで若しこの陛下のお言葉が外部に洩れては、クイデターなどの非常事態も起る惧がありますので、厳に秘密にすることとして六人の巨頭だけで、よく陛下の意を体して方策を練ることになりまして、その後連日六巨頭会議が開かれました。

終戦に対する六巨頭会議とポツダム宣言

会議の内容については詳しくお話し申し上げることは省略致しますが、結局、正式にソ連に対して日米戦争終局に関して斡旋を依頼す

ることとし、近衛公爵を特使としてソ連に送ることになりました。七月上旬、このことをソ連に申しました。

この際記憶すべきことは、東郷外務大臣は最後迄米国に対する直接申入れを主張され、ソ連を仲介することに反対でしたが、米国に直接申入れることは降伏に等しく、到底、軍として容認出来ないという軍の主張によってこの途がとられたのであります。

ソ連は我方よりの申入れに対して色々質問して参りました。その中には若しソ連が仲介をした場合は、日本はソ連に対して如何なることをしてくれるかという、申さば仲介手数料はいくらくれるかというようなこともいつて来たのであります。遂に七月中旬になって折柄開かれることになっていたポツダムに於ける独逸処理に関する連合国会議に出席する為、スターリン、モロトフの巨頭はモスコイを出発することになったので、返事はポツダム会議がすんでからするという通告に接し、話は中断されて了ったのであります。

我々としては実に当惑しながらポツダム会議の状況を注視して居りました。突然七月二十六日米英支の三国の共同宣言の形でポツダム宣言が発表されました。この宣言を私共当局者は一字一句慎重に研究しました。そして卒直に申してこの宣言を以て日米戦争終結の基準とする外はないという結論に到達し、東郷外相の如きは閣議で之を承認してはどうかという議論をされたのであります。(未完)

暑 中 御 見 舞

北 尊 水
国風流詩吟総本部常任理事
錦心流琵琶一水会道東支部
釧路市栄町五ノ二
郵便番号 085
電話(2) 五二七〇番

鎗 田 岳 道
名古屋市中村区若宮町三ノ四
郵便番号 453
電話(18) 代表四一七八番

大 井 錦 淀
清 吟 会
埼玉県大里郡寄居町玉淀
郵便番号 369の12
電話(四八五(81)一七四〇番

馬 瀬 槍 水
大阪府羽曳野市高鷲三丁目
郵便番号 583

秋 元 旭 晨
大阪市東区法田坂町
郵便番号 547
電話(941) 六六二七番

稲 葉 葵 水
中部琵琶連盟副理事長
尾州葵会々々長
名古屋市中村区西町二ノ七
郵便番号 466
電話(73174) 四〇三四番

熊 木 秀 司
東京たばこ配送株式会社
小石川営業所長
営業所 東京都文京区春日一丁目四番
電話(八三) 四〇六八ノ九番
自 宅 埼玉川越市南通町二の二
電話(四九二) 2) 四四六一番

菅 沼 響 水
一水会名古屋支部
名古屋市中村区塩行通一ノ三五
郵便番号 466
電話(52) 761) 四七〇八番

中 部 芸 能 タイムズ
主 幹 西 脇 和 義
名古屋市中村区水主町一ノ三
郵便番号 455
電話(582) 五八八一番

鈴 木 誉 士
東京都練馬区豊玉北五ノ一
郵便番号 176

錦 心 流 琵 琶
清 水 史 水
(本年正月左記へ移転)
明石市和坂字割池谷
郵便番号 673

戸 倉 旭 嶺
錦心流琵琶
大津市中央一丁目一の十号
郵便番号 520
電話(2) 五〇六五番

絢爛の一語に尽きた

天津旭八千代リサイタル

昨秋来慎重計画構想をねって居た旭八千代女史が、六月二十三日(日)大阪梅田の産経会館三階大ホールに於てリサイタルを開催された(有料)。前景気は頗る上々で開場二時間前から視聴客が列をつくり、開演の四時にはさしもに広い千五百人収容の大会場も既に超満員となり、おくれて来た多数の人々は立ち見の有様で近頃ない盛会であった。

出曲は二十二題で、まづ波に日の出の舞台装飾を背景に旭八千代女史が弁財天の扮装で正倉院御物写の稀代の名器を弾して「七福神」を序独奏し、八千代晴美、ひとみ、由美三少女の「石童丸」合奏に菊水氏の笛伴奏、橋旭翁宗家指揮の琵琶十二、琴尺八、ヴァイオリン唱歌伴奏「橋新琵琶楽団、有馬竜子パレ」唱男女二十人の春夏秋冬四場、続いて「秋風故郷の山」以下十五曲がそれぞれ曲目にふさわしい入念の舞台装置に、藤間、花柳、山村、志賀山、西川、水木各流の舞踊、裏千家流茶道、或は吟詠舞等を附して各曲共立体的に構成、特に梨園の名家中村扇雀、映画スターの花柳小菊、舞踊の名手花柳有沈など有名一流達が琴、尺八、笛、鼓、大皮その他のお断し連中付きで立方として共演したのは誠に綺羅びやかで、照明、舞台効果も満点、始めから終りまで真に絢爛の一語に尽き、耳と眼を充分に楽しませて十時十分盛会裡に予定通り終演した。

尚旭八千代女史は前記「七福神」の独演、「秋風故郷の山」の正絃、「仏御前」「噫無情」「舞扇鶴ヶ岡」の歌をそれぞれつとめ、外、

京阪神を始め東京福岡などの名手が多数協賛出演した。また京都琵琶協会から多数来場者援した。(曲目と演奏者「よもやま」欄参照)

普門史城氏芸大で 故相良司城師門下の薩摩琵琶講義開始 同氏は昨年に引続き東京芸術大学音楽学部大学院で今年も六月二十一日から毎週一回文学博士金田一春彦先生と共に薩摩琵琶の講義を開始されたが今学期は「城山」全曲の五線譜に採譜を完了すると共に「謡い出し、切、合の手、吟替り等の高等弾法や歌唱法の分析に力を注がれる予定である。

愛山物故者追悼会に 六月二十三日教盛清水史水氏献奏 塚等の源平古戦場史蹟の多い神戸市須磨寺本堂に於て愛山協会主催の首記が管まれ清水氏自作の錦心流琵琶「愛山物故者追悼曲」の外詩吟、謡曲、仕舞、詠歌などが会員によって献奏されて遺族や一般参列者百余人を感激させた。

因みに清水史水氏は多年琵琶の発展に尽された功績顕彰の意味で今回東京鈴木鉦次郎氏から金盃一個が贈られた。

大阪琵琶同好会の 六月二十三日南海沿奉納演奏会 縁友ヶ島の遊覧を兼ね加太の淡島神社で奉納琵琶詩吟大会を開催。友ヶ島は紀淡海峡の真ん中にある元海軍要塞の跡、素晴らしい眺望と環境に恵まれた詩情豊かな島で当日は新緑に包まれた快晴、神社参拝中で賑い我大会も盛会裡に夕五時終了したが聴衆中には戦後始めて琵琶を聴かせて貰ったという人もあり仲々の好評であった。演奏は河内の宿1井田さえ子、菊水の旗1島津旭抱、扇の的1秋口旭伝、本能寺1松本旭勇、

暑中御見舞

<p>都 錦 穂</p> <p>東京都文京区根津二ノ十五ノ二番</p> <p>郵便番号 113</p> <p>電話(番号) 五七〇八番</p>	<p>星 野 蘿 水</p> <p>秋田市土崎港中央四丁目九番二十六号</p> <p>郵便番号 011</p> <p>電話(番号) 〇三二一番</p>	<p>錦心流一水会秋田支部</p> <p>泉 勝 院</p> <p>峰 口 高 昇</p> <p>和歌山県白浜温泉浜通白良ヶ丘</p> <p>郵便番号 649の33</p> <p>電話(番号) 二二六八番</p>
---	---	--

<p>榎 本 芝 水</p> <p>東京都世田谷区代沢二ノ四八ノ三</p> <p>郵便番号 155</p> <p>電話(番号) 〇八二八番</p>	<p>小 沢 錦 弥</p> <p>東京都荒川区荒川三ノ一二</p> <p>郵便番号 112</p> <p>電話(番号) 三〇七〇番</p>	<p>神 戸 旭 常 会</p> <p>若 宮 旭 霜</p> <p>松 尾 旭 遜</p> <p>神戸市兵庫区下沢通一ノ一七</p> <p>郵便番号 652</p>
---	--	---

石童丸1矢野旭信、白虎隊1石橋旭嶺、外に詩吟五人(敬称略)

京都琵琶協会の たなばた祭りの七月七日定期茶話会 日京都南区吉祥院中島町に新築の矢吹華水女史宅で午後開催、冷房の利いた青畳の香り高い座敷で出席者交互に一曲づつ演奏し夕食を共にしながら十月六日、同二十七日開催の演奏会(別項予告欄参照)の件や六月十三日から十六日に亘り鳥取、島根、広島各地の演奏会に出演した伊吹、吉野田中、矢吹四氏からその実況報告などがあり(出席者)伊吹正陽、戸倉旭嶺、若宮旭登、吉野洲水、田中鵬水、中島旭穂、中島真水、梅原旭壽、矢吹華水、美登里進水、水内媿水、平井春嶺、植村寛水 (敬称略)

一水会大阪支部 七月七日大阪大融寺ホ研修演奏会 ールで第二十回研修演奏会開催左の通順奏したが今回の招待来聴者は熱心なファンのみに限定して五十一名に招待状を発送したに対し当日は梅雨季に珍しい晴天に恵まれて聴客は早くから来場、終演迄約六時間に亘り奏聴共に和やかな雰囲気終始した。終演後馬瀬支部長の司会で①当日演奏に対する批判②演奏会の在り方③琵琶道の将来性等に就て懇談裡に感想や意見の交換が行われ誠に有意義な一ときであった。大阪支部としては熱心なファンの方々の琵琶を愛する真剣な意見や希望を尊重し今後の演奏方針と計画に織込み斯道の発展に寄与したい。(曲目と演奏者)舟弁慶1田中欽水、菅公1吉田正光、城山1中西鉄水、道成寺1番匠渚水、河内の宿1松岡槍月、西郷隆盛1米沢柳

暑中御見舞

<p>北 中 旭 蝶</p> <p>姫路市花田町高木</p> <p>郵便番号 670</p>
--

暑中御見舞

<p>井 上 兼 子</p> <p>京都市伏見区深草瓦町</p> <p>郵便番号 612</p> <p>電話(番号) 四八二〇番</p>
--

暑中御見舞

<p>錦心流琵琶</p> <p>水 谷 充 水</p> <p>金沢市寺町四丁目十三番十六号</p> <p>郵便番号 920</p> <p>電話(番号) 四四二九番</p>
